

第1回徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議 会議録（要旨）

日時 平成28年10月25日（火） 午前9時30分～午前11時50分
場所 ホテル千秋閣7階 鳳の間
出席者 委員27人、市長、事務局（企画政策課）

1 市長挨拶

2 市民会議設置要綱について

（事務局）

「資料1 徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議設置要綱」に基づき、説明。

※ 質問及び意見なし。

3 会長・副会長あいさつ

（会長）

徳島市まちづくり総合ビジョンは、これから10年間の市の施策の方向性に関するとても重要な計画であると認識している。この計画は総合計画と言われていたものであり、法改正を経て、市民と一緒に策定する動きが様々な自治体で見られる。

こうした中、非常に残念なのは、策定の期間がとても短いことである。こうした計画策定にあたっては、多くの共感を得られるプロセスであるかがとても重要であるが、先ずは決められたスケジュールで、策定できるよう努めていきたい。

また、今回の策定の中で工夫できることがあればしていきたいし、次の推進プランにおいて、上手く浸透させてもらえるといいと考えている。

厳しいスケジュールの中、多くの方から共感を得られる、皆さんが頑張って取り組もうと思えるような良い計画になるよう取り組んでいきたいので、協力をお願いしたい。

（副会長）

会長を補佐し、私たちの愛する徳島市を、現在のみならず未来の世代に引き継いでいけるよう総合ビジョン策定に取り組んでいきたい。

4 委員紹介

（事務局）

「資料1 徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議 委員名簿」に基づき、紹介。

～市長退席～

5 徳島市まちづくり総合ビジョンについて

（事務局）

「資料3-1 徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料（将来ビジョン編）」に基づき、説明。

※ 質問及び意見なし。

6 策定スケジュールについて（事務局）

（事務局）

「資料2 策定スケジュール」に基づき、説明。

（会長）

これから来年3月の策定まで約半年間、実質的にはパブリックコメントまでの短期間で案をまとめなければならない非常に短いスケジュールである。

様々な団体の長である委員の方には、本日の資料をお持ち帰りいただいて、団体内で議論することが必要な場合もあるかと思う。

（委員）

例えば、小学校を統合した跡地を活用して、ハードをつくれば駐車場の問題が解決する上に、まちの賑わい活性化にも繋がる。「つなぐ」「まもる」「おどる」の3つの部会に分かれているが、このように「つなぐ」と「おどる」2つの部会に関係してくる場合、全体会議だけでまとめるのか。その都度、2つの部会で話し合うのか。その方向性を教えていただきたい。

（事務局）

各部会にまたがる案件もあると想定しているが、まずはそれぞれの部会で話し合っただき、その後で、会長、各部長の連絡調整会議を実施するなど横の連携を取りながら考えていきたい。

（会長）

それは、部会が2回終わった後、素案を作成するまでの途中に行うということか。

（事務局）

12月市議会に報告する案は最終案ではないため、全体会の開催は考えていないが、12月市議会での報告するまでの間に、会長、副会長等による何らかの形で調整させていただきたい。

（会長）

それは、会長・副会長に限らず、意見された方にも参加していただくワーキングなどのような形で、行うことは可能か。

（事務局）

日程的な問題もあるが、今後検討させていただきたい。

（会長）

2回の部会で意見を出すことはできるかもしれないが、意見を出した後、どのように全体像としてまとめていくのか、出された意見がどのように位置付けられていくのかを、委員のみなさんが認識しなければ、自主的な計画になっていかない。そのため、意見を出した後の調整が最も重要である。

委員のみなさんが次の部会で見るときには、既に案ができてしまい、パブリックコメ

ントにかけられているのでは、もったいないので、何か工夫を考えてほしい。

(委員)

インターネットやメールを用いて、委員間や部会間で意見交換をする、委員が市の担当者と直接話をするなどの工夫をすることで、部会の回数が少なくても、色々な意見や情報を集約できるのではないかと。

欠席される委員の方もいると思うので、市役所側に「つなぐ」「まもる」「おどる」で情報収集や連絡調整を行う担当窓口となる職員を置いてもらえるといい。その中で、いいものは拾い上げていただくなど、工夫ができるといい。

(会長)

情報交流のプラットフォームをつくるというご提案である。何らかの形で、市役所が受けた意見を、委員間で共有できるような仕組みをつくることを検討してほしい。

(事務局)

検討する。

(委員)

自団体の場合は、持ち帰って相談する機会が月1回程度しかないため、部会間の間隔が1カ月なければ、意見を集約することがむずかしい。

(会長)

2つの部会の日程が近すぎて、団体の意見を反映することが難しいとの話だが、この問題はどうか。

(事務局)

部会の日程は接近しているが、それぞれの部会でテーマが異なるため、そこで話された内容を持ち帰って、1月に開催予定の次の部会で、反映していただければと考えている。

(会長)

団体内で意見がみんなに伝わる機会がほしいため、この点についても検討してほしい。

(委員)

団体の長である委員は、各団体で委任状をもらって参加し、代表者が話をされるといい。時間短縮が必要なら、各団体員の話それぞれ聞いて確認しなくても、この会議を公開して行えば、それぞれから意見が入ってくるので、十分なのではないかと。

(会長)

団体によっては、直接会わなければ意図が伝わりにくいという場合もある。色々な意見もあると思うが、上手く組織の中で整えられればと思う。

また、スケジュールの課題はみんなでも共有したい。何か他に意見はないか。

(委員)

スケジュールは徳島市が最適の日程をつくっていると思われ、このスケジュールは変えない方がいい。

それでは時間が足りないということであれば、それぞれの委員が濃厚に情報共有して、深めることで補っていく。それぞれの委員が、3月まで真剣に取り組み、徳島市が吸い上げて反映していくしか方法はないのでは。

(会長)

3月末に完成させるというのは、使命となっているので、委員の皆さんと頑張りたいと思っている。その中で、できることは何かということ、先ほどのご提案を含め考えていきたい。

スケジュールについては、2回の部会が終わった時点で、徳島市と部会長などが、どういう形で進めていくかを検討する。2回の部会後のスケジュールについては、変更があるかもしれないが、当面、2回の部会まではこのスケジュールで進めていく。

各委員には、忙しい中、厳しいスケジュールでのお願いとなり、申し訳ないが、ご協力をお願いしたい。

7 徳島市の現状と課題等について

8 - ① 徳島市まちづくり総合ビジョン策定方針について(目指すまちの姿(将来像))

(事務局)

「参考資料 徳島市総合計画 基礎指標調査報告書(概要版)」に基づき、徳島市の現状と課題等について説明。

「資料3-1 徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料(将来ビジョン編)」に基づき、目指すまちの姿(将来像)について説明。

(会長)

今後のまちづくりに向けた大きな方向性を示す部分であり、ここはできれば皆さんからご意見をうかがいたいと思っているが、いかがか。

(委員)

将来像の例の中に「水都」とあるが、大学で講義したときに学生に「水都」の意味を聞いたが、誰も答えられなかった。この「水都」の意味を、歴史的な面でも、文化的な面でも市民に伝えられていない。

元々、新町川は運河であった歴史があり、藍、木材を運ぶ水路を発展させてきたことから水の都ができあがり、徳島市は商業で発展してきたまちである。

こういった「水都」の歴史を掘り下げて、元々の徳島市の姿を後世に伝えていくことが必要である。

(委員)

阿波おどり時期には便乗値上げ等の問題があり、阿波おどりの際などに、ホスピタリティ、おもてなしの面が弱いとのご意見を頂くことがある。おもてなしの部分に焦点をあてて、まちづくりを考える必要があるのではないかと感じている。

(委員)

若い人は、関心のあることには活発だが、ボランティア等の方面に対する関心は薄く、ボランティアは減ってきている。このような活動にも、若い人を巻き込んでいかなければ、持続していかないと感じている。

また、公共施設が問題に出ているが、催しの会場が無いことに困っており、施設が不足していることは大きな問題である。お金は必要などころには使っていただいて、将来の子どもたちに文化的・芸術的な感覚を養ってほしい。

(委員)

今年度は交通事故が多く発生しており、一人ひとりの教育が大切であると思う。

また、自分の住んでいる町内はおすそ分けの習慣があり、とても仲が良い。地域でお年寄りを見守るなど、市民全体での取り組みが必要であり、それが広がっていけば、費用をかけずに良い社会が築けるのではと思っている。

(委員)

所属している団体の意見を吸い上げ、この会でしっかり伝えていきたい。

(委員)

資料を確認して、次の部会でしっかり意見できればと思っている。

(委員)

一人ひとりの人権を大切にす、足元を見つめながら施策を展開することが大事だと思う。

(委員)

高齢化が進んでいるが、老人クラブ会員は減っている。高齢者層を活性化させることが、徳島市の活性化にも繋がると思うので、高齢者福祉の一層の充実が必要である。

(委員)

徳島市は、会場・ホテル等が不足しており、なかなか全国大会を開催できないのが実情である。

きれいごとばかりでているが、実際は徳島市に楽しいことはあるのかというような閉塞感が強い。徳島市は良くなる素質があるのか、本当に良くなるのかという危惧がある。

また、この計画策定に市民の意見が反映されるのか、策定後は、きちんとフォローできるのか、そういった点も危惧しており、問題点は山積していると思う。

(委員)

障害者問題は、「つなぐ」だけではなく、全てに関わっている。例えば、バリアフリーの街づくり等、多岐にわたっている。

(委員)

徳島は足りないことも沢山あるが、その分、面白いことを沢山つくっていける。これから人口減少も伴ってくるため、住民の自立「自分たちのまちは自分たちでつくる」こ

とが、ますます大事になってくると思う。

(委員)

前回もこの会議で色々と提言したが、何一つ実現していない。徳島市は、県庁所在地で際立ってスポーツ施設が少ない。予算がないと言われるが、こういった問題も部会を通じて提言していきたい。

(会長)

ご指摘のとおり、前回の計画の見直しも必要である。

(委員)

人口減少・高齢化の一番の原因は、出生数が少ないことである。生まない、結婚しない、家制度の変化といった背景がある。女性を大切にしなければいけない。

また、子育て支援、3人目の子どもを手厚く支援するなどの対策を講じるなど、根本的な人口減少対策が求められる。

高齢者の無料化ではなく出産の無料化をすることが必要である。

(会長)

人生前半の福祉という議論があるように、子育て世代やこれから子どもを生むであろう世代への施策が重要であるということは、ご指摘のとおりである。

(委員)

阿波おどり期間の便乗値上げは、卸し段階で行われているので、小売り段階では対応できない。行政指導が入らないと解消できないと思っている。

ホテルの会場の問題が出ていたが、徳島市内中心部のホテルで会合が多く行われており、宿泊数が上がっていても、ホテルの収支は黒字になっている。ホテルの営業努力により、会合を多くとっているのが現状である。

買い物では、メジャーブランドがなく県外に流出しているが、メジャーブランドは人口の要件を満たさなければ出店しないので、人口が増えなければ難しい状況である。

明石海峡大橋が開通したときに、流入する人が増えて経済が活性化すると期待し、県・市・事業者は対策をあまり講じなかったが、逆に神戸、大阪に消費が流出した。

今からでも、県外流出をできるだけ食い止める対策が必要である。

先ほど、おすそ分けの話が出ていたが、こういった現象は、顧客満足度が顧客期待度を上回った場合に起きる。このような店が増えることで、県外への流出が少なくなる。

(委員)

高速道路の延伸に合わせて、関係する地区(川内、沖洲、津田地区)へ工場誘致を促進すべきである。工場ができることで、雇用が増えて、税収も上がり、街の活性化に繋がっていく。縣市協調で取り組んでほしい。

(委員)

作ればいいではなく、現実的な見方で計画策定について考えていきたい。

また、将来像のキャッチフレーズはどのように決めるのか？

(事務局)

将来像は、全体会・部会を問わず、ご意見をいただき、参考にしていきたい。また、将来像の案は、12月の市議会に提案していきたいと考えている。

(会長)

部会においても、将来像を話題にしていき、どこかの時点でかためなければならないが、そのタイミングが今の時点では未定である。

(委員)

自分には小学生の子どもがいて、この会議に参加するきっかけになった。子育て支援は重要だが、子どもの安全な遊び場が減ってきている、地域の交流が薄れているなど問題が多くある。地域の繋がりがもっと深まると、地域ぐるみの子育て支援で「つなぐ」、犯罪や事故などから子どもを「まもる」に繋がるので、そういった視点からまちづくりを考えていきたい。

(委員)

学会やコンベンション等で徳島市の街が賑わっているが、今後もこれらの誘致が観光促進の視点からも重要である。徳島市の魅力をいかに発信していくかに重点を置かないと、全国の都市が同じことを考えているので、徳島市が埋もれてしまうと感じている。

こうした中、徳島らしさ、徳島の魅力をPRする手法を施策の中で考える必要がある。

また、基礎指標調査報告書は興味深かった。この本編も見てみたいので、ホームページ等で公開されてはどうか。

(事務局)

現時点では公開できていないが、今後、HPに掲載することを検討する。

(委員)

私たちの団体は、まちの活性化などに取り組んでおり、まちづくりの事業を通して、産官学、色々な視点でまちの活用方法を検討していきたいと考えている。

特に、最近では、シンボルロード（新町の通りを歩行者天国にする）の活用注目している。

(会長)

近年、世界的に「プレイスメイキング」という、会場ではなく広場や道路などをまちの活性化に活用していこうと動きが出てきており、シンボルロードはとても重要である。

(委員)

「つなぐ」まち部会に参加し、一番最近に教育を受けたものとして、また、これから子育てを行っていく立場から、意見を出していきたい。

(委員)

まちづくりは人の数が基本であるが、人口減少、少子高齢化は地方都市どこでも進んでいる。仮に出生率が1.8に向上したとしても人口は減少するため、流出人口を抑制し、

流入人口を増やすしか方法がない。そのためには、新しい企業を誘致することが必要であり、楽しそうだから人が来るというものではないと思う。県内でも神山町など流入人口が多いところがあるので、徳島市でも参考にできる部分は参考にして、人口を増やし活性化させる取組を行ってほしい。

余談だが、学校の先生がジャージ、短パンといった服装で勤務しているのを見て、問題だと思った。これでは、先生と生徒の垣根が狭まり、友達感覚になってしまうことで、先生として尊敬されないのではという気がする。

(委員)

自分は「おどる」まち部会に所属しており、「おどる」という言葉をまちづくりや人づくりのタイトルに使うには違和感があるものの、冷静かつ客観的に議論していきたい。

基礎指標調査報告書で出ている「4つの課題」について指摘したいことがある。

課題3の「労働力人口の減少」は衰勢として起きている現象であり、その解決策として雇用創出が挙げられているが、これらは別々のもので必ずしもリンクしない。労働力人口の減少に対しては、労働生産性を上げる、IOTを活用する等の対策が必要である。

徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料の施策方針では、雇用についてダイレクトに触れられていないのが気になる。

また、高齢者の増加に伴い高齢者市場が大きくなるが、その点に触れられていない。医療、福祉、介護を産業としてみていない。労働の検討事項に入れるよう考えた方がいい。

(会長)

この20年間くらいで、最も雇用が伸びている分野が、医療、福祉、介護であり、産業の基幹である。残念ながら、それが東京に吸い上げられている状況にあるが、それに対応するのも重要である。

(委員)

先ほど、若者のボランティアが減少しているという話があり、若者の自主性の問題もあるが、どんなところで何ができるかという情報が無いことも問題である。

情報が多様化しすぎており、ピンポイントの情報でなければ、キャッチしにくい状況にあると思う。

計画の中で、「市民目線」という言葉があったが、パブリックコメントと言っても、それ自体を知らない市民の方も多いと思うので、多くの意見をいただくのは難しい。

情報発信の仕方に問題があるため、情報発信の仕方をもっと考えるべきだと思う。

(委員)

高齢者が増加し、地域の課題が増えており、民生委員だけで対応しきれない状況にあり、地域全体でフォローしていくことが大切である。

市民が分かり易い、納得できる計画を作って欲しい。

(委員)

先日、ゴミ処理場を見学したが、技術が進歩して、非常に清潔であった。その際に、当初、反対はあったものの、きちんと近隣の方に説明して理解をいただけるよう努めた

ことにより、今では反対の声がほとんど聞かれなくなったという話を聞いた。そういったことを、徳島市だけでなく広域でも取り組むことにより、理解を得られるのではないかと感じた。

また、眉山の山頂に何も無いのが残念である。阿南の牛岐山や六甲山にはLEDアートがあるが、眉山でも何か施設ができて、活用できたらいいと思う。

(委員)

徳島市まちづくり総合ビジョンの策定にあたり、2つの視点を提案したい。

1つは、働く女性の視点を取り入れてほしい。現在、まち・ひと・しごと創生、その中でも女性の活躍推進が言われているが、それは女性の働き方の問題でもある。そして、女性の働き方の問題は、人口減少、出生率、子育て支援等の問題に繋がっていくものであるので、ぜひ働く女性の視点を検討してほしい。

2つ目は、若い世代の視点である。総合ビジョンは、すべての世代が関わるものであるが、持続可能なまちづくりを考えていくには、これからの社会を受け継いでいく若い世代の意見が大切である。

総合ビジョンは、総花的にならず、多少とがっていても、特徴をもたせて、徳島市らしいものにすることが必要ではないかと思う。

(委員)

労働力人口の減少や、高齢化の進行に対して、医療・介護現場では外国人が増加している。また、国際結婚が増加するなど、外国人が社会の一員として徳島市に根付いてきている。こうした中、言葉の支援や外国人への情報発信が必要になっている。

また、インバウンドについては、通常の観光地だけでなく、田舎体験など、私たちが気づいていないところが魅力になっている。こうした中、徳島市も何か魅力を提供できるのではないかと思うので、そういう視点からも計画を検討できるといい。

8 - ② 徳島市まちづくり総合ビジョン策定方針について (基本目標・基本政策)

(事務局)

「資料3 - 1 徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料 (将来ビジョン編)」「資料3 - 2 徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料 (施策方針編)」に基づき、説明。

(委員)

前回の達成度、効果が出なかったものは一体何が足りなかったのか等の検証を、先に行うべきではないか。

(事務局)

今回の資料ではお示しできていないが、1回目の部会で、報告させていただく。

(委員)

昨年度、中心市街地まちづくり協議会が、1年間まちづくりについてのワークショップを行った。その成果も、計画策定時に検討してもらいたい。

また、住民中心のワークショップも別に国が行っているので、その成果物も、参考にしてはどうか。

(会長)

意見としては重要なものが含まれていると思うので、そういった情報を共有することが大切だと思う。

(事務局)

それぞれの計画については、参考にするとともに、反映できるものは検討していきたい。

(委員)

徳島の魅力は、街に学生が多いことである。高知では、大学が市内中心部から離れていることもあり、街に若者が少ない。

また、徳島の阿波おどりは、外国人から見ても魅力的である。

(会長)

先ほどから、課題ばかり出てきたが、魅力の議論を深め、これから何を行っていくかを考えることも重要である。

(委員)

1回目の部会に出席できないので、その時の資料を事前（2回目の部会前）にいただきたい。

(会長)

欠席委員には、事前に資料を渡すこと、また、会議の場以外での意見等の情報共有について、事務局に検討してもらいたい。

(事務局)

資料は事前にお送りしたい。情報共有の方法について、事務局で工夫していきたい。